

令和5年

9月の重要農作業

四国中央市農業振興センター

《問い合わせ先》

四国中央農業指導班

(畜産) 東予家畜保健衛生所

TEL 23-2394

TEL (0897) 57-9122

【天気予報及び概況】

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)
2020年	24.3	28.7	21.0	363.0
2021年	23.9	27.9	20.7	188.0
2022年	24.7	29.1	21.3	371.0
1991~2020年	24.1	28.1	20.7	232.5

※気温については、1ヶ月の平均値(気象庁)

【作物】

1 水管理

これからの管理で、最も重要なのが水管理です。根の活力維持に努め、品質の向上に努めましょう。

(1) 出穂期～出穂期以降

浅水管理(2～3cm)をします。異常高温が続く場合は、かけ流し灌水で地温を下げ、根傷みを防ぎます。

(2) 登熟期

灌水して土壌に水分を与えたら、水は溜めずに、足跡に水がたまっている程度(飽水状態)にします。

(3) 落水期

落水期は収穫前7日程度としますが、収穫作業に支障のない程度に刈り取り直前まで走り水灌水で土壌水分を保ちます。

2 病害虫防除

(1) 斑点米カメムシ類の発生圃場率は、平年に比べやや多くなっていますので防除を徹底してください。

スタークル顆粒水溶剤2,000倍(収穫7日前まで)を使用する場合は、出穂後10～15日頃に散布してください。多発時には、1回目防除の7～10日後に追加防除をしてください。

スタークル粒剤3kg/10a(収穫7日前まで)を使用する場合は、出穂後7～10日頃に散布してください。

スタークル剤は、ウンカ類・ツマグロヨコバイにも有効です。

(2) いもち病が発生している場合は、速やかにブラシフロアブル1,000倍(収穫7日前まで)で応急防除をしてください。

3 収穫準備

コンバイン、乾燥機等の点検を実施して、計画的な作業を行ってください。

【品種別収穫適期基準】

区分	短期あきたこまち	ヒノヒカリ	にこまる
出穂後積算温度(°C)	900～1,050	900～1,100	1,000～1,150
最長稈黄変率(%)	85	85	85～90
出穂後日数(日)	33～37	40～46	42～48

<桐野>

【野菜】

1 さといも

(1) 病害虫防除

ア 疫病

9月は、孫芋の肥大並びに充実期です。台風等の強い風雨により疫病が急激に拡大し葉・茎を損傷すると、収量減が予想されます。

台風や長雨が予想される場合「ダイナモ顆粒水和剤2,000倍」または「アミスター20フロアブル2,000倍」を散布してください。

9月上旬に出荷予定の圃場は、使用時期に注意してください。

【登録農薬】

農薬名	病害名	濃度	収穫前日数/回数	特徴
ダイナモ顆粒水和剤	疫病	2,000倍	収穫21日前まで / 3回	予防及び治療効果がある 高温多湿時葉害を生じる場合がある
アミスター20フロアブル	疫病	2,000倍	収穫14日前まで / 3回	予防及び治療効果がある 高温多湿時葉害を生じる場合がある

イ ハスモンヨトウ

発生密度を確認して、フェニックス顆粒水和剤2,000～4,000倍(収穫前日まで/2回)で防除してください。

(2) 出荷計画

マルチ栽培は、掘取り調査の結果等を参考にして、計画的に収穫してください。

(3) 追肥：露地栽培

9月上旬に「化成444」を30kg/10aを施用してください。また、肥料の吸収量は、次第に低下しますので過剰施肥は控えてください。

2 やまのいも

(1) 灌水管理

極端な乾燥や湿潤にあうと芋の肥大不足や2次生長(肥大)、ひび割れを起こす場合があるので、水管理には最後まで注意し土壌水分を適湿に保ってください。

9月下旬～10月中旬まで晴天が続く乾燥する場合は、適宜、走水程度の灌水を行ってください。

(2) 病害対策

炭そ病の発病が懸念される時期です。葉が枯れあがらないようにトップジンM水和剤等で予防散布に努めてください。なお、台風など強風や大雨後の予防及び炭そ病発生圃場には、ラピライト水和剤400倍(収穫14日前/4回)を散布してください。

(3) 害虫対策

ハダニ類による吸汁及びヨトウムシやナガイモコガ等の食害による葉面積の極端な減少は収量低下につながります。圃場を巡回し、適期防除に努めてください。

(4) 排水対策

大雨の際、圃場内に滞水が起こらないように、予め排水路の点検をしてください。

<可部>

【果樹】

1 摘果

(1) 温州みかん

着果と新梢のバランスが良く、後期摘果を実施している樹は、早生温州の着果量が多い樹から摘果を開始し、10月上旬頃を目途に普通温州までの摘果を順次、実施してください。

果梗枝が太く下垂しない果実、果皮が粗い果実、極小果、キズ果、内・すそ成り果を摘果し、果皮表面が滑らかな小中玉果を樹冠の表面近くに多く着果させます。思いきった摘果(後期重点摘果)を行い、葉果比20～30程度に調整してください。着果量が少なく樹上選果で対応する樹は、10月以降に大玉果や傷果を樹上選果してください。

(2) 中晩柑類

小玉果、内成り・すそ成り、日焼け果、キズ果を摘果してください。

2 灌水

(1) 温州みかん

葉の巻き具合(葉の萎凋が朝になっても戻らない)、旧葉の落葉状況等をみながら、7～10日間隔で10～20mm(10～20t/10a)を目安に灌水して、適度な水分ストレスを維持します。

(2) 中晩柑類

高温、土壌乾燥が続けば7～10日間隔で20～30mm(20～30t/10a)を目安に灌水を行ってください。

<可部>

【花き・花木】

1 アネモネの本圃の準備

(1) 土壌消毒の実施

排水・保水性が良く、日当たり・風通しの良い圃場を選定します。バスアミド微粒剤20～30kg/10aを均一に散布して土壌と混和します。散水後、すぐにビニール被覆し、10～14日後にガス抜きを行います。

(2) 元肥の施用(本圃/10a当たり)：苦土石灰…100～120kg、スーパーエコロング413…70kg、ようりん…60kgを施用します。

(3) 畦立て：畦幅120～130cm、畦高15cmが基準です。

2 ラナンキュラス

(1) 播種床の準備：本圃10a当たり100㎡の播種床を用意します。

(2) 元肥の施用(播種床/100㎡当たり)

苦土石灰…10～12kg、石灰窒素…6kg、ようりん…6kgを施用します。

3 シキミ

秋芽伸長期です。新芽に被害を出さないよう適期防除してください。

炭そ病にはペンコゼブ水和剤600倍、アブラムシ類・ゲンバハムシ類にはスミチオン乳剤1,000倍、サビダニ類にはピラニカEW1,000倍を散布します。

4 ピットスポラムの生産振興

ピットスポラムは常緑低木で、光沢のある波打った葉がアレンジに用いられ、安定的な需要が見込まれます。出荷時期は10～12月頃が最盛期です。

9月中旬～10月は定植適期となります。生産・販売に関心のある方は、JAうま富農経済部 奥原、または指導班 佐津間までご連絡ください。

<佐津間>

【畜産】

暑熱対策の継続、徹底を

家畜の適温域の上限は、乳牛で20°C、肉牛や成豚は25°C、採卵鶏は30°Cですが、9月中旬までは最高気温が適温域を大きく超える日が続きます。

夏バテを防止するには、いかに飼料を食い込ませるかが重要になります。栄養成分では、夏場は食塩やミネラル・ビタミン類の消費が多くなるため、飼料への添加が有効です。また、冷たい新鮮な水がいつでも飲める状態にあるか、給水設備のチェックも重要です。早朝の時間を有効に使うと細やかな飼料管理を行えます。

家畜に夏バテのストレスが蓄積していると、たとえ朝晩の気温が涼しくても体力が回復するまで数日間を要します。また、体熱の放散が不十分だと、日中に上昇した体温が夜間に正常に下がらないことがあります。

朝晩に作業者が涼しく感じると夜間に送風機を止めてしまいがちですが、9月中旬頃までは家畜の様子や舎内の気温等も確認しながら、夜間も送風機を運転してください。

<平野>